

令和7年 7月 4日 (金)

あさひの日だまり

NO.12

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

～臨海学習へ行ってきました～

5年生の皆さん、楽しい思い出をありがとう

1日(火)と2日(水)は5年生の臨海学習でした。引率者として一緒に臨海学習に参加させていただきました。今回の子どもたちの様子の報告や私の感想を少し記させていただきます。

臨海学習の引率はこれで3回目です。それぞれの学年が考えた学習のねらいは毎回違います。その目標を実現するためにどの5年生も担任の先生と一緒に頑張って頑張ります。

今回の臨海学習でもねらいをみんなで実現しようとする子どもたちの誠実な活動と、それを支えようとする担任の先生の声かけや気配りが私の心をなんどもなんども温かい感動の思いで包んでくれました。

5年生の皆さんが考えた今回のめあては6つありました。

- ・移動はすばやく
- ・明るいあいさつ
- ・何をするとき？次何を？を考えた行動
- ・自分の使ったものや場所は元通りに
- ・声の大きさに注意
- ・自分のことは自分で

以上です。どれも学校での日常生活を意識してあるものばかりです。臨海学習だから特別というわけではありません。臨海学習は日常の学校生活の延長上にあることが意識されています。当然日常出来ていることを今回発揮しようという面もありますし、日頃なかなかうまくいっていないことをこの機会に気を付けて頑張って実現しようと考えたこともあると思います。

私は男子の風呂の当番をしました。子どもたちはお風呂で大喜び。大騒ぎをして出ていきました。誰もいなくなった風呂場で「最後の風呂桶やいすの片付けをしようか」と思って風呂場をのぞきました。のぞいてみてびっくりです。風呂桶といすがきれいに片付けられています。まるで旅館の方が片付けたかのようになっています。「自分の使ったものや場所は元通りに」がそこに見えました。

夕食の時間そして朝ごはんの時間、館内放送が入るわけではありません。係の子どもが時計を持っています。きっと



と部屋のなかで友だち同士のやり取りがあったのでしょうか、会場へ遅れてくる部屋は一つもありませんでした。私の今までの経験では「あれ、何号室の子がきていないぞ、呼びに行こう！」ということがよくありました。今回の臨海学習ではそういうことが一回もありませんでした。「移動はすばやく」「何をするとき？次何を？を考えた行動」を本当に実現しようとしている姿がそこに見えました。

自分の持ち物が見当たらなくなってしまった子がいました。「ぼくの〇〇が見当たりません。誰か知っている人はいませんか？」と呼び掛け

ていました。「自分のことは自分で」頑張っていました。

私はよく「自律を目指そう」とお話ししています。自分で考え判断し行動できる力を大切にしたいと思っています。臨海学習の子どもたちを見ていると次第にそういう姿へ成長していつていることが見て取れてとても頼もしく感じました。そして、そういう自分自身や集団での生活があつてこそ、臨海学習が「自分たちのもの」になり、「自分たちの臨海を楽しんでいる」という実感を持たたのではないかと思います。私は二日間子どもたちの傍らにいて本当に海を楽しんでいる姿を目の当たりにしました。心の底から楽しめる子どもたちの純粋さに心を動かされました。この子たちと一緒に臨海学習ができて本当に幸せだったと思ひながら帰りのバスの一番後ろの席から子どもたちの姿を見つめていました。



～ミヤマシジミについての学習～

絶滅危惧種のチョウチョを守るために

本校の裏門の横に「コマツナギ (駒繫)」が植えられています。昔田畑を耕すための馬を繋ぎとめておいた植物であったということでこの名が付いたのだそうです。なぜこの植物が本校に植えられているかという、あるチョウの幼虫がこの植物だけを餌にするのだそうです。名前をミヤマシジミと言います。シジミチョウの一種です。シジミチョウは日常よく目にするチョウですが、ミヤマシジミは絶滅危惧種に指定されている貴重なチョウです。昔は辰野町内のいたるところにいたようですが、現在は荒神山にのみいるということです。そこで本校では校内にコマツナギを植えミヤマシジミを育てる取組をしています。

4日(金)に昆虫について学習をしている3年生を対象に昆虫教室が開かれました。信州大学名誉教授の中村先生、辰野町いきものネットワークの土田先生のお二人を招いて授業をしていただきました。

長野県はチョウの種類が日本一多いこと。それは低地から高い標高までが存在するために多様な昆虫が住めること等私も知らないことを勉強できました。本校のコマツナギで育つ幼虫も観察できました。子どもたちは盛んに質問し新しい知識を楽しく吸収していました。

